

- 高齢者総合ケアセンター星の里 (久保町) TEL (0848) 37-7272
- ワークスさつき (美ノ郷町) TEL (0848) 48-5900
- むかいしま作業所 (向島町) TEL (0848) 44-6460
- 尾道福祉専門学校 (久保町) TEL (0848) 37-2222
- 尾道さつき作業所 (久山田町) TEL (0848) 23-8004
- 尾道サンホーム (木ノ庄町) TEL (0848) 48-4070
- すだちの家 (御調町) TEL (0848) 77-1122
- 尾道市障害者サポートセンターはな・はな (門田町) TEL (0848) 29-5002



▲緊張でいっぱいです

尾道さつき会の障害者施設「ワークスさつき」と「むかいしま作業所」が、11月から有限会社マザーベア高西工場で企業内授産*を始めました。

これは尾道市の就労専門部会で企画されている職場体験実習に、ワークスさつきの利用者さん2名が参加したことがきっかけです。実習終了後「できれば続けて実習に来てもらえないか」とのお誘いをいただき、施設とマザーベアの双方が協議を重ね、企業内授産としてスタートしました。障害のある人を実習等で受け



▲割らないように気をつけて

入れてくださる企業は少ない現状の中、作業や対人関係における能力向上の機会として始めました。

マザーベアでは衛生面に配慮して、白衣を身にまといコック用の帽子をかぶり、マスクをして手を消毒します。まず、この準備だけでも利用者さんにとっては緊張感があり、学習にもなっています。そしてクッキー・焼ドーナツ・マカロンなど焼き菓子の袋詰めや商品のシールを貼る作業を中心に行いますが、お菓子の種類によって袋や入れる向きに違いがあり、ひとつひとつ覚えながら作業を行っています。

しかし、利用者さんは「今日もがんばってやる」今日は間違わずにで



▲力加減が難しい

*企業内授産とは…企業内に作業場を設置し、職場に近い環境のなかで企業の作業に従事する仕組み

新たな企業内授産に挑戦

ワークスさつき
魚谷 龍雄

きた「マザーベアに就職したい」など、作業に参加できることを励みにされています。

マザーベアでは障害者雇用を前向きに検討しております。尾道さつき会では、数少ない障害者雇用の機会をとりえ昨年度は5名の障害者の一般就労を支援しました。今回も利用者さんの成長を願い、この貴重な機会を一般就労につなげられるよう、一層の努力をしていきたいと思っております。

開所して満22年が経った尾道サンホームは、建物の老朽化対策と生活環境を改善するため、2011年4月に大規模改修工事を着工し、9月に無事工事が完了しました。工事期間中は短期入所*の受け入れ態勢が整わず、皆さんにご迷惑をおかけしました。

大規模改修では、2階の部屋が利用できるようエレベーターを設置し、トイレ等の段差も解消しました。また、誰もが利用しやすいように玄関の拡張や個室の改修も行いました。

改修工事によって個室が増えたこともあり、今年1月から短期入所の定員を25名から7名に増やすことになりました。また、今までは利用対象が療育手帳をお持ちの方のみでしたが、今後は障害の種類に関わりなく利用が可能と



▲トイレは広く使いやすく



▲居室は一新、設備も充実

短期入所の定員増へ

尾道サンホーム 徳山 佳久



▲エレベーターで2階へ

お泊りいただく部屋は、利用者さんの状況に応じて和室と洋室が選べ、薄型テレビやDVD等の設備も充実しています。

「家族に急なことがあったが夜間一人にはさせておけない」「少し介護の疲れを取りたい」等、お困りのことがあればご連絡ください。これまでより「安全、快適で利用しやすく」をモットーに皆さんの利用をお待ちしています。

***短期入所とは？**
居宅で介護を行っている方の疾病やその他の理由により、介護が困難になった場合、利用者が施設に短期間入所し、日常生活に必要な支援を受けるものです。

空調電化が完成

星の里 武縄 栄洋

昨年10月11日にスタートした星の里の空調設備工事が、12月末に終わりました。今までのガス式から電気式空調設備に切り替わり、オール電化となりました。以前は各居室での温度調節ができず不便な面もありましたが、それができるようになり、利用者さんが快適に過ごせるようになりました。

今まで事業所で行ってきた節電などの省エネ活動が経済産業省に評価され、今回の工事費総額の1/3補助金が出ました。今後もCO²削減に大きく貢献していくよう努めていきます。

お知らせ

児童福祉法等の改正により、平成24年4月から児童の福祉制度が変わります。「あいあい」または「親子教室あいあい」の利用を新規にご希望の方は、次の連絡先までお問い合わせください。

こども発達支援センターあいあい
電話 (0848) 56-0405 担当：小川

寄付者一覧

(二〇一二年八月〜二〇一二年十一月、順不同、敬称略)
〈寄付金〉 宇根高子、得能キヨ子、植田美博、鼻孝子、廣谷毅、芦田孝子、池田敏子、水戸川賢造、山根智恵子、杉谷競俊、盛中弘造、井上洋、西願寺、(有)半田商店、梶山小児科医院、匿名者2名
〈寄付物品〉 内田照子、須田稔、琴修会、(株)小川、(株)まるじょう、(有)こもん、イトク食品(株)

編集後記

3回にわたってお送りした「地域との交流シリーズ」はいかがでしたか？今後も交流を大切に、地域に求められるサービスを提供していきます。

(T.O)

地域との交流 地域で支え合おう～地域包括ケア会議スタート～

尾道市向島地域包括支援センター 池田 光紀

会議終了後、地域のケアマネジャーからは「民生委員さんの日々のご苦労を初めて知った」「地域から頼られるケアマネジャーになりたい」との感想が述べられました。民生委員さんからは「民生委員それぞれが抱えている悩みや迷いを、包括ケアマネジャーさんに聞いてもらうだけでも心が安らぎます」との言葉をいただきました。今後も地域包括ケアの推進に向け、この会議を継続していきます。



▲民生委員さんとケアマネジャーの意見交換

向島地域包括支援センターは、向島地域内にある居宅介護支援事業所等のケアマネジャーと私達センター職員が互いに協力し合い、地域の様々な課題に取り組んでいくシステムを構築するため「向島地域包括ケア会議」を立ち上げました。相談に携わる職員は、日頃から地域の最前線で活動されている民生委員さんとの連携を深めていくことが重要です。お互いの顔が見える関係づくりを目的とし、小規模単位のケア会議を6月から11月にかけて計8回開催しました。会議を進める中で、民生委員さんから地域の様子をお聞きし、その中に私達専門職が解決策を見出さなければならぬ問題が多く潜んでいることが明らかとなりました。

S-1フェスティバル

ダブル受賞

尾道さつき作業所 今川 陽平

広島県主催のS-1フェスティバル2011が、昨年12月11日に紙屋町地下街シャレオ中央広場で開催されました。

S-1フェスティバルとは、「施設」「作業所」「スナック」「スイーツ」の頭文字「S」を用いたもので、県内の障害者施設18チームが参加しました。

尾道さつき会からは、コッコさんのパンでおなじみの尾道さつき作業所が「チーズケーキ」、すだちの家が「ガーリッククッキー」を出品しました。

会場には湯崎英彦知事やご当地アイドルの「まなみのりさ」も登場し、大変盛り上がりしました。湯崎知事、審査員、試食された一般の方に投票していただき、尾道さつき作業所が優秀賞、すだちの家が審査員賞とダブルで賞をいただきました。



▲優秀賞を受賞したチーズケーキ



▼大勢の人で賑わった試食会場

今日の献立は何でしょう？



●新人ヘルパー奮闘記●
「笑顔で楽しく」を
応援

ヘルパーステーション星の里 山田 ゆりか

ヘルパーは一人で援助をします。ヘルパーになったばかりの時は、体調が急に悪くならないかな、転倒はないかなと、ドキドキしながら訪問していました。しかし、私が思っていた以上に自分のことは自分でしようと頑張っておられる姿を見て、私のドキドキも小さくなりました。

利用者さんでは難しい行為の援助も喜ばれるのですが、それよりもお話を聴いてあげるとさらに喜ばれます。訪問を楽しみに待ってくださる方もおられます。今までなかったが自分でやってみようか、できるようになったよ…と、利用者さんが頑張ったことや嬉しかったことを聴かせていただくと、私も嬉しくなり訪問が楽しみになってきました。笑顔で楽しく過ごして頂けるようこれからも頑張ってお援助します。

向島に初の障害者ケアホーム

生活支援員 泉 唯

2011年10月1日、向島町にケアホーム「むかしま荘」がオープンしました。島内初の障害者を対象としたケアホームです。アパートの一室を借りて男性3名で生活しています。地域で自立した生活を送れることを目標に、日中は就労先や作業所へ通い、夜は各目的の部屋で自由な時間を過ごしています。夜間の職員配置はありませんが、むかしま作業所がバックアップ施設になっているので緊急時も安心です。

法改正で10月から月額1万円までの家賃助成も始まり、ケアホームやグループホームがより利用しやすくなりました。障害者の地域生活を促進していくべく、今後もケアホームの開設に努めます。

▼共有ダイニング
「少し狭いけど快適です！」



にしごこの家グループホームでは、2011年3月から月に1回利用者の方と一緒にお弁当作りを行っています。利用者さんに料理作りが得意な方が多かったこと、お弁当を持つて花見に行こう！という声などがきっかけで、毎月の行事になりました。まずは月初めに利用者の皆さんと「運営会議」を開きメニューを決めます。その会議で11月は、「おいしいサンマが食べたい」という声が多くあり、炭で丸ごと1匹を焼いてお弁当にしようということになりました。当日は朝から、女性職員が火おこしに奮闘。見かねた男性利用者が一緒に火をおこす事になりました。「新聞にくるんでさんまを焼いたら、うまいことになりました。」



▼焼き上がりはいかに！！

完成!!

おいしい焼サンマ弁当

にしごこの家グループホーム 松本 ちひろ



▲外で食べれば味も格別



▲おいしそう！さんま弁当出来上がり

「来月は何を作ろうか」と、みなさんとても楽しみにされています。今度も、利用者のみなさんが楽しみながらできる行事を、工夫しながら取り入れていくことで、生き生きと過ごしていただければと考えています。

「焼ける」と聞き、試してみましたが、さんまが新聞にひっつき失敗。新聞をアルミに変えてみるとうまい具合に焼き上がりました。

一方、室内では女性利用者の皆さんの出番。煮物、ほうれん草の胡麻和えといった副菜を作りました。みなさん料理はお手の物で、下ごしらえから味付けまで手際よく進みます。職員も間に入りながら、「味はどう」「もっと小さく切ったほうがいいんじゃない」など会話も弾みます。「来月は何を作ろうか」と、みなさんとても楽しみにされています。

さんまにはもちろん大根おろし

